

京都漢方研究会
第32期「特別講演」❶
2022年4月17日

難治性疾患に対する中医昇降学の応用 ～人体の昇降出入運動から病態と処方を考える～

李時珍研究所所長・世界中医聯合会老年病專業委員会常務理事

寇 華 勝

Kou Hua Sheng / コウ・カシヨウ



【プロフィール】

- 1982年 湖北中医学院大学院卒業，医学修士取得
- 1986年 上海第二医科大学腎臓専攻にて研修
- 1990年 筑波大学臨床医学系内科教室にて研修
- 1992年 東邦大学医学部内科教室へ移籍，医学博士取得

1990年に著した中国語版『中医昇降学』の臨床価値が中国で高く評価され、中国伝統医学史上において「中医昇降学」が一つの学説として広く認知されるようになり、中国中医科学院客員教授、北京中医薬大学第一臨床医学院客員教授、華中科技大学同済医学院客員教授、湖北中医薬大学客員教授、湖北民族学院客員教授、フロンティア大学臨床教授などを歴任。日本在住で日本の漢方事情にも精通し、現在日本では講演活動とともに漢方相談顧問を務める。

著書：『中医昇降学－昇降・出入理論とその診断治療体系』（日本語増補改訂版）、2022年、メディカルユーコン

『中医昇降学』、『中医免疫学』、『李時珍研究』（中国語）等

共同編輯：『湖北名老中医經驗集』（中国語）

訳書：『老年痴呆症』（中国語）

共著：『舌診アトラス手帳』（日本語）1994年、メディカルユーコン

1. 概説

難治性疾患とは治療が特に難しく、病状も長く、さらに生活していく上で長い間に渡って支障がある疾患である。例えば間質性肺炎、難治性喘息、パーキンソン病、特発性拡張型心筋症、潰瘍性大腸炎、クローン病、萎縮性胃炎等である。しかし中医昇降学の角度から診れば、難治性疾患は人体の昇降出入運動の失調によるものであり、昇降出入運動を調整すれば意外な治療効果を取めることができる。

昇降とは、物質運動の表現であり、陰陽の矛盾運動における対立と統一の具体的な表現である。中医学は昇降の概念を使って、臓腑の特性、経絡の性能、気の作用機序及び人体の生命活動を説明する。人体の生命活動の中での昇降の位置づけ、昇降の運動形式、昇降の乱れによる病理変化、昇降を調えるための規則、中医薬の昇降浮沈の性能、経穴の開闔・出入の特徴及び昇降の本質などの研究は、いずれも昇降学に含まれる。

2. 人体の昇降出入運動から難治性疾患の病態を分析する

難治性疾患の病態を昇降学的に診れば、次に述べる幾つかの昇降出入運動の動態バランスの乱れとして分類できる。

① 五臓における昇降運動の失調

難治性疾患の多くは、五臓の昇降運動失調に起因する。生理的には、心火は下降し、腎水は上昇し、肝気は左側から昇発し、肺気は右側から下降し、脾胃は中央にあって昇降運動のの枢軸として全体を調整する。この五臓の一連の昇降運動により、全体の昇降運動の動態バランスが保たれる。

この五臓の昇降出入運動の動態バランスが崩れると病気を引き起こす。特に難治性疾患の場合には、一つ臓の昇降運動失調ではなく、しばしば多くの臓の昇降運動の動態バランスが崩れ、出入運動が乱れる。

② 「久病多虚」による昇降運動の無力化

難治性疾患は治療困難ゆえに、病程は長期間に及ぶ。中医学では「久病」といって、また「久病多虚」という諺がある。つまり難治性疾患は年月を経て、身体の気血などを消耗していくこととなり、その多くは気虚、血虚、陰虚、陽虚などの虚証をもたらす。

気虚は清気の上昇障害をもたらし、めまい、倦怠、脱力感、開眼困難、眼筋無力などを発症する。

気虚は推進力の低下から周行・循環の停滞をもたらし、胸苦、動悸などを発症する。

気虚ゆえに水穀精微の気を上昇させることができず逆に漏下させ、精気の固摂機能は失調し、難治性腎疾患の蛋白尿の転帰となる。

③「久病成瘀」による昇降運動の阻害

病気が長期間に及べば血が滞り瘀血を生じる。難治性疾患も同様である。即ち「久病成瘀」である。臓腑経絡の気血が瘀滞し、血脈はスムーズに巡らず、昇降出入運動を障害する。全身性エリテマトーデスでは臓器の瘀滞をもたらし、昇降運動が失調すると肝機能障害、腎機能低下がみられ、体表の出入運動が失調すれば胡蝶斑・瘀斑を発症する。

瘀血が昇降運動の経路を阻害し、肝と脾胃・腎間の昇降運動が失調し、肝気の疏泄障害、脾気の昇清と胃気の降濁障害、腎気の気化機能障害をもたらし、胸脇部刺痛、腹脹、顔面黧黒などの症状が現れる。

④「久病入絡」による出入運動の失調

経絡は昇降出入運動の通路であり、大きい通路が経脈で、十二正経・奇経八脈があり、小さい通路が絡脈である。ゆえに大経小絡といともいわれる。絡脈は経脈の正経や奇経からの分枝であり、主要な分枝が十五別絡である。体表部で最も末梢の細い絡脈を孫絡といい、身体表面を走行することから浮脈とも呼ばれる。体表に分布する絡脈が陽絡、体内臓腑に分布する絡脈が陰絡で、絡脈のネットワークを形成する。

難治性疾患のような病は病邪が絡脈入って出入運動の失調をもたらし、ますます治療困難になる。

⑤「虚実錯雑」による昇降運動の逆乱

難治性疾患患者の多くは体質が虚弱で、病程が長く、気血を消耗し、痰濁・瘀血が経絡を阻滞し、虚実が錯雑し、昇降運動の逆乱がみられる。昇降運動の乱れが病状を複雑化させ、悪化させ、そして悪循環に陥る。

いずれにせよ難治性疾患は昇降運動が乱れ、虚実錯雑証を呈する転帰が多い。

難治性疾患の病態の本質は昇降運動の失調であるから、昇降運動を調整する治療は難治性疾患の治療において有力な手段となる。

3. 昇降出入運動の角度から治療法を決定する

難治性疾患の診断治療は、まず全身の昇降出入運動のバランス状態を診る。特に五臓は昇降運動の中核であるから、五臓の昇降出入運動の状態を診る。局所の病気でも、全身の昇降出入運動のバランスが崩れたことに起因する。したがって全身の昇降出入運動のバランスを調べ回復しなければならない。次いで全身の昇降出入運動に悪影響を及ぼしている素因を除く。

全身の昇降出入運動のアンバランスを回復する治療原則の下で、具体的な治療法には多くの選択肢がある。今回の講演では具体的な治療法の中から次の六つの治療法を取り上げて解説する。

① 昇清降濁法

② 疏肝降肺法

③ 交通心腎法

④ 滋陰潜陽法

⑤ 化瘀通絡法

⑥ 辛開苦降法

難治性疾患に対して「中医昇降学」は幅広く応用でき、かつ診断治療において有力な武器となる。聴講された方々に参考になれば幸甚である。